

学 校 監 査

監査対象 小学校25校、中学校15校

監査期間 令和5年9月8日～令和6年1月9日

学校監査では、市立小学校及び市立中学校における学校長の権限に係る事務の執行及び学校施設の管理状況等について、関係書類の調査、関係職員からの説明の聴き取り、現地調査を行いました。

監査の結果、5件の指摘と10件の指導を行いました。

また、施設一体型小中一貫教育などについて、3件の意見を付しました。

★主な指摘事項

・理科準備室の薬品管理について

劇物（塩酸、アンモニアなど）の保管容器には、毒物及び劇物取締法の規定に基づく表示である「医薬用外劇物」の文字を表示すべきところ、一部の薬品においてその表示がされていませんでした。

【駒形小学校、南藁科小学校】

・危険物の保管に係る表示について

東豊田小学校では、危険物の保管に当たり、「少量危険物貯蔵取扱所」と表示された保管庫を使用していました。当該保管庫には防火上の注意事項を表示した標識や「少量危険物貯蔵取扱所」の標識のほか、危険物の類、品名及び最大数量を掲示した掲示板を掲げることとされていますが、その掲示板には「第 類、品名、最大数量」といった項目が表示されているのみで、危険物の類、品名及び最大数量の記載がされていませんでした。

また、「少量危険物貯蔵取扱所」の標識や危険物の類、品名及び最大数量を掲示した掲示板の表示が、その表示の色を定めている市火災予防条例施行規則の規定に基づく色の表示となっていないませんでした。

【東豊田小学校】

●主な意見

・施設一体型小中一貫教育について

ア 両河内小中学校の取組について

両河内小中学校は、市内で初めて複数の小学校の統合によって誕生した施設一体型小中一貫校ですが、統合に当たっては、学校、保護者及び地域が一体となって、一緒に子どもたちを育てていこうという意識をもって取り組んできたとのことでした。

統合による子どもたちへの効果について確認したところ、小学生にとっては規模の拡大により切磋琢磨する環境が整ったといった等の効果があり、中学生にとっては小学生から見られていることを意識するようになったことで、自らが優れたロールモデルとなるような行動が見られるようになった等の効果が表れてきているとのことでした。

今後も、「ふるさと両河内に誇りを持ち、豊かに表現するたくましい子」の育成に向け、学校、保護者及び地域が一体となって取り組んでいくことを期待します。

イ スクールバスの活用について

両河内小中学校の学区は、人通りの少ない地区であることから、児童生徒のスクールバス下車後の交通安全、不審者対応、大雨・土砂崩れ等の安全確保が課題とされており、その対策として、防犯協会、PTA、サポーターズクラブ、地域住民等に対し、児童生徒の見守りを呼びかけているとのことでした。

また、スクールバスの運行を地域の自主運行バスを運営しているNPO法人が行っていることから、運転手と地域との距離が近く、安全確保のための効果も期待できる状況にあるとのことでした。

今後も、学校と地域が連携し、子どもたちが安全に登下校できる環境が維持されていくことを期待します。

ウ 今後の施設一体型小中一貫教育の導入への水平展開について

現在、市内では、施設一体型小中一貫校を目指す小中学校の統合計画が複数の地区で進められていなく、先駆的な取組となった両河内小中学校では、両河内における地域活動が活発であったということが、小中一貫校となるために好条件ともなり、他の地域が単純に参考とすることはできないとも思われますが、それぞれの地域の状況を踏まえ、両河内小中学校の事例で取り入れるべき点は参考にし、学校、保護者及び地域が一体となって、子どもたちの将来を考えて取り組むことで、「一緒になって良かった。」と思われる学校が誕生することを期待します。